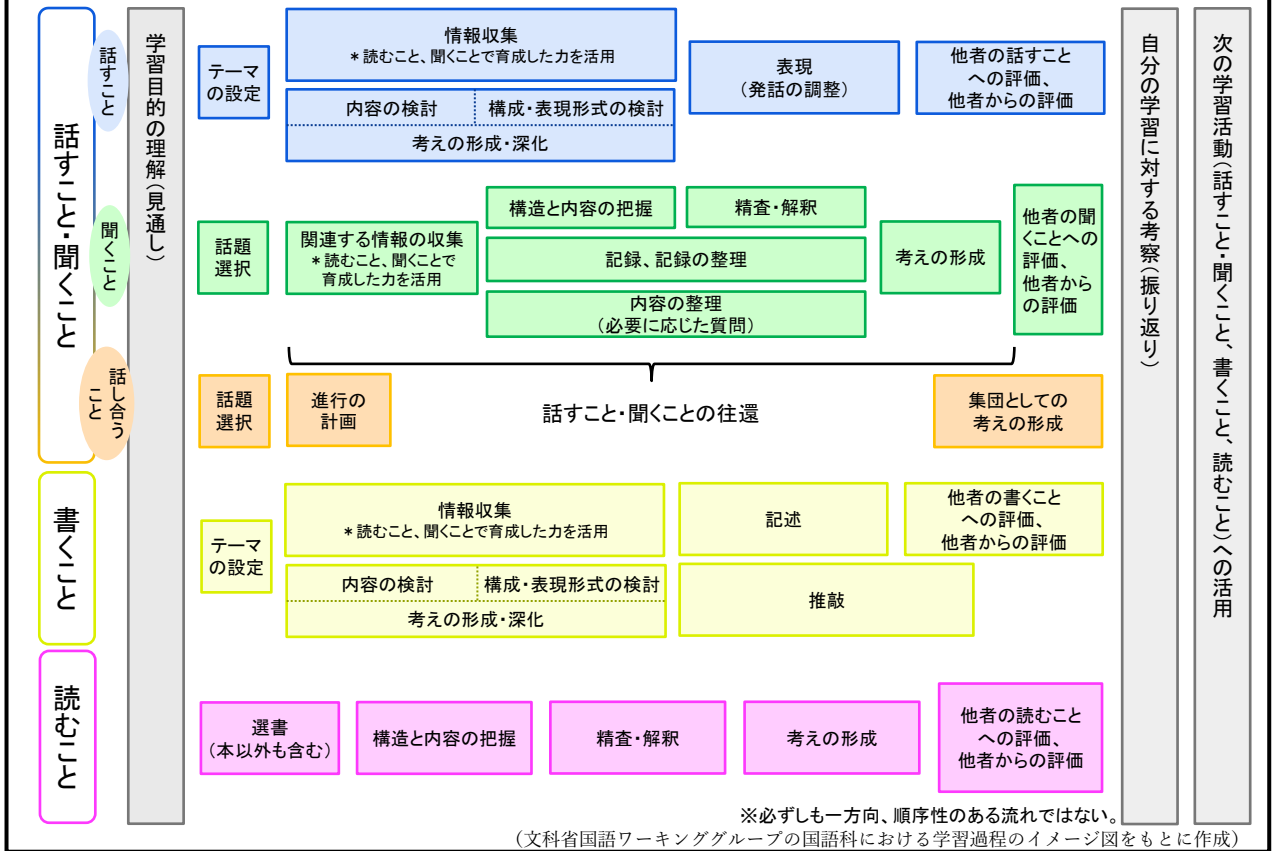
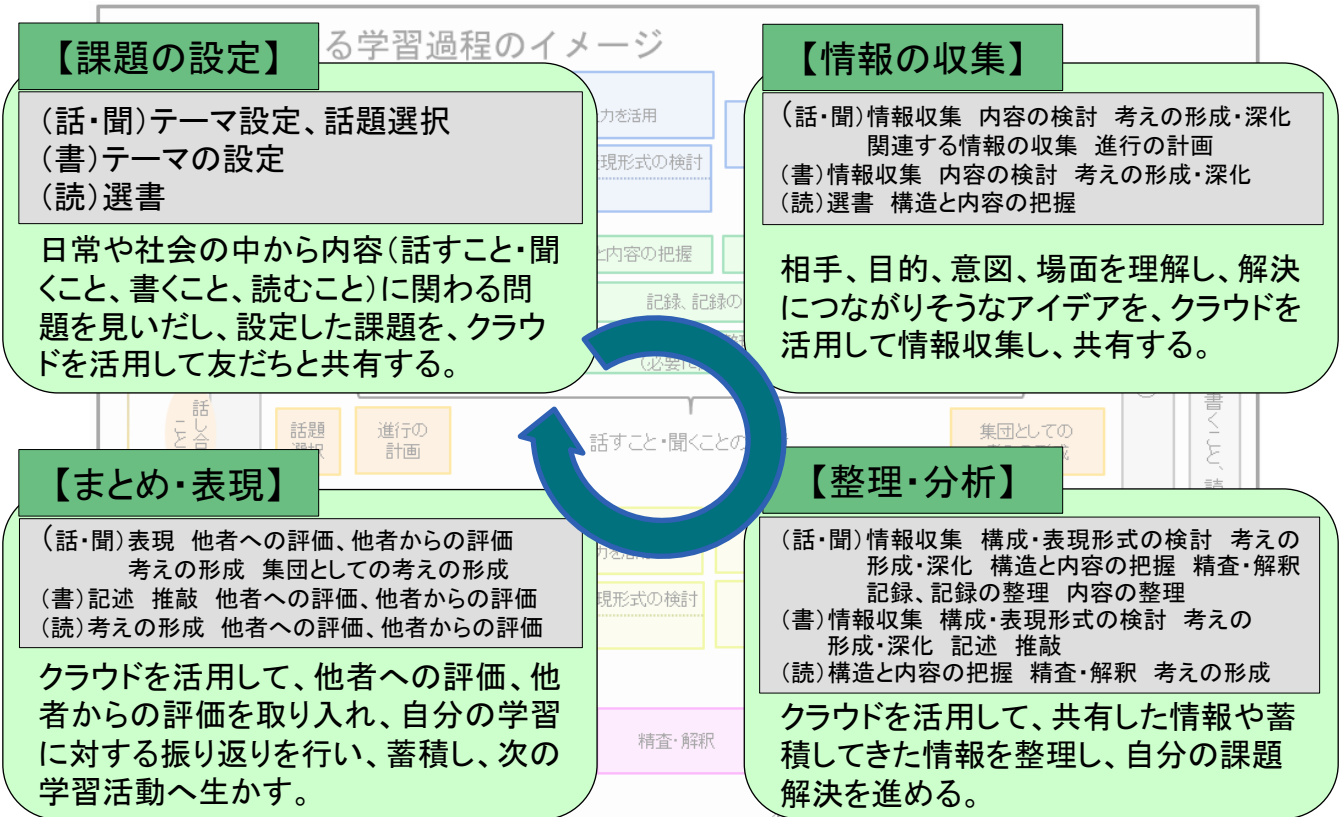


国語科における学習過程のイメージ



国語の学習過程における問題発見・解決の過程でのクラウド活用(例)

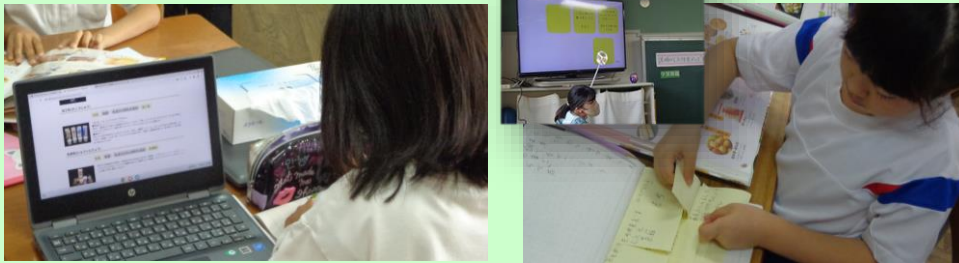


見方・考え方：報告する文章を書いて自分の考えが言葉で相手に伝わるように、対象と言葉との関係を、言葉の意味に着目して捉え、言葉への自覚を高める
I C T の活用：自分の課題やペースに合わせて学びを調整できるように活用
学習場面：児童が自分の課題解決に向けて学習方法を選択して追究していく場面

【課題の設定】(書)テーマの設定

題材について説明する文章を書き、課題を明確にする。

【情報の収集】(書)情報収集 内容の検討



多様な手段で、情報収集する。再現可能な状態で保存する。

【整理・分析】(書)構成・表現形式の検討



クラウド上で思考ツールを活用し、自分が選んだ題材の情報を分析し、整理する。



クラウドでの共有や大型モニタへの提示により、まとめ・表現への見通しをもつ。

すがたをかえる大豆
 ○筆者の書き方のくふう
 ・伝えたいことはだんらくの最初に書いてある。
 (おいしく食べるくふう)
 ・具体的な例が書かれている。
 ・「次に」「また」「さらに」「これら他に」がある。と、わかりやすい。
 ・写真は説明(くふう)の下にあると、わかりやすい。
説明する文章を書くときのポイント

児童が、自分で学習方法を選択して追究できるよう、手書きのふせんも写真で記録したり、インターネットや書籍で情報を収集したりする場を設ける。

児童が、集めた情報を、目的に合わせて分類したり、話し合いながら整理・分析したりするために、思考ツールを編集可能な状態でクラウド上に用意する。

児童が、まとめ・表現への見通しがもてるよう、クラウド上で、児童の問いやつまづきを共有したり、書き方のポイント等をいつでも確認したりできるようにする。

この事例のポイント

- ・課題解決のための情報の収集を、児童が選択し行えるよう環境を整える。
- ・思考ツールを活用して、多様な情報を整理する。
- ・児童がまとめ・表現への具体的な見通しがもてるように書き方のポイント等を共有する。

課題の解決に向けて、児童自身が学習を調整しながら進めていく。



クラウドに集積した児童の学びの足あとを評価情報として指導に生かす。